

2019年12月11日実施
電気規格調査会 講習会 『ビル用マルチエアコンによるエネルギーサービス
に関する標準仕様（JEC-TR-59004:2019）の解説』
アンケートの質問への回答

質問：「電力供給システムと電力エネルギーサービスの国内外の動向」の資料を見ると、Open ADR は、配電者⇔アグリゲーター間で用いるように読み取れますが、「ビル用マルチエアコンによるエネルギーサービスの実装（OpenADR、61850）（第8章・第9章）」を見ると、需要家も Open ADR に対応する必要があるように思えたのですが、どちらの認識が正しいのでしょうか。

回答： OpenADR 通信サービスは需要家電力資源に対し、需給調整の依頼を調整量、調整方法および、実施期間などを指定して行うことを基本的な目的としています。OpenADR 通信サービスでも電力資源となる設備機器に対し、遠隔から監視制御することはできない訳ではありませんが、リアルタイム性などに課題があります。

経済産業省は送配電事業者とアグリゲータとの間の通信サービスとして OpenADR 通信サービスの使用を推奨しています。送配電事業者が需要家の電力資源に直接、触れず、アグリゲータに需給調整の依頼、発動を行うためであれば、この間の通信サービスとして OpenADR 通信サービスを推奨することは妥当であると考えます。一方、経済産業省はアグリゲータと需要家電力資源間の通信サービスはアグリゲーション事業の競争領域にあるものとして、通信サービスを特定していません。しかし、この間の通信サービスを標準化しないと、アグリゲーション事業が電力資源の製造、保守にシェアを持つ事業者に優位となってしまう懸念があります。

このため、JEC-TR59004 ではアグリゲータと需要家の電力資源の通信サービスとして、IEC TC57 で、国際標準となった OpenADR(IEC 62746-10)と IEC61850 の二つによる実装例を示しました。このとき、OpenADR は需要家電力資源を直接制御する形態と、需要家電力資源に BEMS などのエネルギー管理装置に需給調整を依頼する間接制御の形態を想定しています。

送配電事業者とアグリゲータとの間の通信サービスとしては OpenADR 通信サービスを選択するのがよいと考えます。アグリゲータと需要家電力資源の間の制御が間接制御である場合は、この間にも OpenADR 通信サービスを使用するのがよいと考えます。

以上